

十和田市事務事業評価シート

担当課名	観光推進課
------	-------

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	114	整理番号	22
基本目標	にぎわいと活力あふれる「しごと感動・創造都市」		
施策の展開方向	観光の振興		
事務事業名	エコツーリズムの推進		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	エコツーリズム推進法
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	12	12	12
	活動日数(日)	2	2	2
	人件費(千円)	864	864	864
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
うち一般財源	500	500	500
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	自然環境(奥入瀬渓流区間)及び市民(他市町村を含む)
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	自然環境保全、渋滞解消及び観光と環境の共生の理解促進
手段 (どのようなやり方で行うのか)	奥入瀬渓流区間の交通規制及び併催事業の開催

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	交通規制及び併催事業の実施				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
		日	2	2	2	
	活動指標名	温室効果ガス(CO2) 大気汚染物質(NOX)の減少率				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
			66% 50%	77% 62%		
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	アンケート結果「マイカー規制の必要性」				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
		%	目標値	100	100	100
			実績値	76	79	
			達成度(%)	76%	79%	
	成果指標名					
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
		%	目標値			
			実績値			
			達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

整理No	22
計画No	114

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		自然環境保全を目的とし、交通渋滞に関する理解を深めていくためのものであり、事業の妥当性は十分にあると考えられる。
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		環境と観光の共生の理解促進、エコツーリズムの機運の醸成を図るための、事業内容を見直しする余地がある。
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		関係機関との連携により、渓流区間の適正な利用を図っている。
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		自然観光の保全は全ての市民が望んでおり、事業の実施に当たっては官民協同で行っていることから、公平性は確保されている。
現在の適性					19 / 20	改善の余地 1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

現状のまま継続

方向性の理由

国道102号(奥入瀬渓流区間)の適切な利用について、関係機関と長期的に検討していく必要がある。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

アンケート調査等を実施し、適切な実施方法の見直しを行うことで、事業についての理解促進と効率的事業遂行を図る。